

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 令和7年1月10日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出席者 下田教育長 中上委員 森委員 大塚委員 泉委員 綿引委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和7年1月10日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告
横浜教育データサイエンス・ラボの開催報告について
- 3 審議案件
教委第42号議案 横浜市学校保健審議会委員の任命について
教委第43号議案 横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

下田教育長

ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。11月15日の会議録の署名者は大塚委員と泉委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、12月20日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

石川教育次長

【一般報告】

1 市会関係

教育次長の石川です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

○12/20 第5回中学校給食メニューコンクール表彰式

○12/23 令和6年度 横浜市総合教育会議

(2) 報告事項

○横浜教育データサイエンス・ラボの開催報告について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、12月20日に、「第5回中学校給食メニューコンクール表彰式」が、市庁舎31階のレセプションルームで開催され、下田教育長が出席しました。

また、12月23日に、「令和6年度 横浜市総合教育会議」が、山中市長の主宰により、市庁舎3階の多目的室で開催されました。教育長、教育委員全員が出席し、「今後の横浜の教育政策」として、「第5期横浜市教育振興基本計画」の方向性について、協議しました。

続いて、報告事項として、この後、所管課から「横浜教育データサイエンス・ラボの開催報告について」、報告いたします。

私からの報告は以上です。

下田教育長

報告が終了いたしました。御質問等ございますか。よろしいですか。

それでは、御質問がなければ、「横浜教育データサイエンス・ラボの開催報告について」、所管課から御報告いたします。

山本学校教育
企画部長

学校教育企画部長の山本です。「横浜教育データサイエンス・ラボ」を開催しましたので、その御報告をさせていただきます。詳しくは、教育課程推進室長より報告いたします。

丹羽教育課程
推進室長

教育課程推進室長の丹羽でございます。今年度、新たに始まりました横浜教育データサイエンス・ラボを2回開催しておりますので、御報告させていただきます。

横浜教育データサイエンス・ラボは、児童生徒約26万人の教育ビッグデータを活用し、教員、大学、企業との共創によりましてデータ分析を行い、エビデンスに基づく学びの実現や、教育内容の充実を図ることを目指しております。もう少し付け加えさせていただきます。横浜教育データサイエンス・ラボは、若手から中堅の教職員、専門的な知見をもつ大学研究者、データの分析・加工の専門的な技術をもつ企業で形成されており、教員の課題感や求める効果を出発点としまして、大学や企業の知見やノウハウを組み込んで研究する場でございます。児童生徒約26万人の教育データを分析し、教職員や子どもたちに有効な「教育データ」を提供する新たな仕組みでございます。

資料の中段を御覧ください。「令和6年度 横浜教育データサイエンス・ラボ」の開催の状況を御報告します。「開催日」は、第1回が令和6年9月20日金曜日、第2回が令和6年11月21日木曜日でございます。「テーマ」は、第1回が「算数科・数学科の学力と意欲の関係」、第2回が「子どものこころの変化をとらえ、安心な学びの環境をつくる『横浜モデル』の開発」でございます。続きまして、「参加者」の延べ人数でございます。オンライン参加人数も含めまして、2回の合計が143名でございます。

最後に、横浜教育データサイエンス・ラボ内で行われました「グループディスカッションでの意見」を御紹介いたします。まず、第1回でございますが、「小学校の算数から中学校の数学になることで、伸び悩む子どもが多いという傾向について、子ども自身が自分のつまづきを理解できていないこともあるのではないか」というような御意見がございました。また、第2回の意見でございますが、「こころの健康に関するデータを読み取ることが、質の高い教育の実現につながる」。また、「子どもたちのSOSをキャッチする方法が増えていくことは非常に良い」「医療と連携し、子どもたちのためになっていけたら良い」などの御意見を頂きました。報告は以上でございます。

下田教育長

説明が終了いたしました。御質問等ございますか。

中上委員

私も第1回、第2回とオンラインで参加させていただきましたが、御紹介でありました、第2回の意見の中であったように、子どもたちのSOSをキャッチする方法が増えるというのは素晴らしいことだと思うのです。選択肢は増えるのですが、担任がまずはしっかりと受け止めて、その子の状態によって生徒指導専任教諭や、保健室の養護教諭など、その辺りの連携が大事になってくるかと思えます。先ほどお話にあった医療との連携で、第2回で、横浜市立大学の医療チームと連携してデータ分析し、医療の可能性につなげる、検証されるということで、非常に素晴らしいことだと思います。質問は、これはまさに「横浜モデル」になっていく、全国的にも非常に先進的な取組だと思うのですが、この「横浜モデル」の考え方と言いますか進め方があったら、現時点で分かる範囲で教えていただきたいです。

丹羽教育課程
推進室長

価値付けていただいております。今後の「横浜モデル」の開発スケジュールでございますが、現在、小学校1校、中学校1校をモデル校としまして、子どもたちの心の変化を捉える、そのような新しい仕組みの中でモデル検証しております。そのモデル校での検証を経て、来年度はしっかりと、どの程度の子どもたちをどう医療につなげていくのかということも併せて検証を進めていきたいと考えております。

中上委員

ありがとうございます。そのモデル校はそれぞれこの趣旨については、学校長も保護者も含めて全体で賛成されているということでしょうか。

丹羽教育課程
推進室長

今、御指摘いただいたとおりでございます。

下田教育長

ほかにご覧ですか。

綿引委員

私は感想と言いますか期待を込めたメッセージですが、私が知っている限り、児童生徒約26万人の教育データを取って分析しているのは、世界各地にも結構あります。一方、心の状況と教育データを組み合わせてデータ分析をしているというのは、世界の中でも聞いたことがない。よって、ものすごく意味のあるプロジェクトだと思います。ですから、いろいろな問題はありますが、ぜひ乗り越えて成功に導いてほしいなと思うところであります。特に、報告資料の中にあるところから2点申し上げたいのは、エビデンスに基づく客観的なデータを出していくという点で言うと、日本の教育界というのは今まであまり科学に基づいて物事を考えてこなかった世界だと思っています。その意味で、データに基づいて効果評価をする、客観指標を作るなど、それに基づいてフィードバックをする、新しいEBPMのスタイルを横浜市が全国に先駆けて取り組む意味合いはものすごく大きいと思うので、ぜひ困難を乗り越えて進んでほしいと思います。

2点目は、一方で、やはり教育の改革は、子どもの安全第一を考えた上で大人がリスクを取って行わないと、教育の改革は進まないと思っています。その意味でこのDXというのは、大人が子どもの安全第一を考えて、リスクを取って進める必要があるという意味で、セキュリティのガバナンスに関しては、横浜市のセキュリティガバナンスに任せきりにせずに、教育委員会事務局として医療と教育データのセキュリティガバナンスをどのように検証して高めていくのか、これは戦いだと思っていますので、ぜひしっかり取り組んでほしいと思います。その意味で、やはり先々を踏まえた予算をしっかりと取っていくようにしないと、セキュリティコストはカバーできないと思います。横浜市の市長部局ともしっかりとコミュニケーションを取って着実に前進できるように進めてほしいと思っています。期待もしておりますし、一緒に考えていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

丹羽教育課程
推進室長

どうもありがとうございました。教育を科学するという視点をしっかりと踏まえながら、子どもの安全第一で進んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

下田教育長

ほかにご覧ですか。

大塚委員

今回、児童生徒約26万人の巨大組織の強みを生かす、そして産官学連携というものを作り上げていかれる、その過程というのは苦労も多いと思います。また、これからどんどん仕組みが形になっていくというところで、なかなか道は簡単ではないと思いますが、授業改善や心のケアにつながる仕組み作りというのに、今後期待していきたいと思います。

私からは2点で、1点目は、この教育データということ自体が一体どういうことを示しているのか、そして教育データがもたらす効果とはどういうものなのかということ、現場の教職員の方々が実感して、共通言語になって初めて横浜市が一体となって目指すことができると思うのです。そのときに期待したいのは、教職員の研修がきっと変わっていくのではないかと。そこをまた考えてくださっていると思うのですが、やはり教職員に実感していただく。教育データによって変えることができるということ。そして、そのための教育データとはどのようなものか、それを教職員がまず実感することで、それを今度は学校で子どもたちや保護者が実感してくださるところでいくと、教職員の研修の学びの場が実感できて、しかも体験を通して学べる、そういう研修になってほしいというのが一つ期待であり、要望であります。その体験の中で、今までは勘や経験というものが私たちにとって大事なものだのですが、そこに加えて教育データがあることで、行ってきたことが確かなことだったなど、自分の授業力が向上してきていたということ、改めて自信につなげるようなものになっていくということも、ぜひ研修で実感していただきたいと思います。

2点目は、下田教育長も述べられていました、この教育ビッグデータを医療の専門的知見に基づいて分析するという点ですが、子どもの心の状況に応じた「横浜モデル」は、今その話題にも出ましたが、教育委員会事務局だけではなく、産官学連携だからこそその実現可能な取組だと思います。子どものストレスを可視化して医療につなげることや、横浜教育データサイエンス・ラボにおける分析で相談できる環境を全校に作るという、その部分がぜひ早く実現できるような取組をお願いしたいです。現在、不登校やいじめ、そして、一人ひとりの子どもが個々に抱える様々な課題に、より適切に対応できるようにしたいという思いが、この仕組みには込められているように思います。この仕組みを構築し、全校展開されることで、一人ひとりの子どもたちが抱えている課題をより効果的に解決に導く、そのような取組ということの一つ書かれていたのが、精神科医療等へつなげることについてです。子どもたちがそのつなげた先の医療に出向いていくわけですが、そこで学校教育とどう連携していくかという医療側の取組についても、ぜひ教育委員会事務局が道筋を作っていただきたいと思います。そういった点で、医師会等との連携など、まだまだこれは先のことになるかと思いますが、ぜひそこも丁寧に作っていただきたいと思います。期待と要望です。以上です。

丹羽教育課程
推進室長

ありがとうございました。今言っていたいただいたことを私たちはしっかりと踏まえまして、一番は、教職員も子どもたちも自分のこととして捉えられるようにということでは、やはり議論がしっかりされるということが大切だと思っています。特にこれからは子ども一人ひとりがまさに主体的に自分自身を知り、医療との連携にも納得感を得ながらという意味では、子どもの意見や考えもしっかり取り入れていきたいと思ったり、しっかりヒアリングしたいとも思っております。ありがとうございます。

下田教育長

ほかにございますか。

御報告ありがとうございます。この横浜教育データサイエンス・ラボについては中身も拝見しましたし、いろいろなプレスにも出ていたと思います。そういうのも読みながらすごく印象に残っていることは、これまでは平均点や偏差値でどうしても捉えられやすかったものが、それ以外のいろいろな気付きを増やせるものにつながっていくという話と、一人ひとりが良くなっていくためのデータということが書いてあったのが印象的でした。これはどのように皆さんが考えているかということをお聞きしたくて一つ質問と、あとはコメントです。良くなるためのデータとは良い状態なのか。データは、いろいろなデータが取れて活用もできていくと思うのですが、その先、どういう状態を目指しているのか、良い状態というのをどのように定義しているのか、改めてお聞きできたらと思いました。

コメントとしては、私自身はそれをすごく考えながらこの話をお聞きしていたのですが、三者面談や、子どもたちがテストを持って帰ってきたときの表情など、いろいろなことを思い出すと、できていないところをどのようにできるようにするかというところでどうしてもフォーカスされやすいですが、どちらかというと、できているところを見つけやすくなって、それを伸ばしやすくするような手だてになっている状態がすごく良いなと思ったりします。あともう一つは、オールラウンダーではないですが、全部できるようにならなければいけないようなプレッシャーの中で子どもたちはすごくもがいているときもあると思うのですが、「あなたはこれがすごくできるよね」ということをみんな褒めていくことのツールになっていくとすごく良いなと思います。あとは、できるできないだけではなくて学び合う姿勢など、「学びをすごく模索しているね」、点数には全然出てきていないかもしれないけれど、「すごく頑張って模索しているね」という、その姿が教育データの中から見つけやすくなるというすごく大事なデータだと思いますので、そういうことを見えたら良いなと私が個人的に思っていることが個人のデータについてです。

もう一つは、例えば集団としての教育データとして見たときに、クラスの状態だったり、その子が学校に通えていなかったり、交流級や個別支援学級などいろいろな形で学びに向かっているときに、その子自身が自分らしくいられることがしっかり尊重されているだろうかということが捉えられるようなデータも、それは個人だけではなくて、もしかしたら集団と掛け合わせてかもしれないませんが、そこも見えると良いなと思います。学校の中も、学校の外もですが、その人の周りに良い関係ができていて、尊重されているということが実感できていることが学びの土台になっていく部分だと思いますし、そこを見ずに、上に乗っていく点数が伸びた伸びないというようなところだけ取り組んでもやはり限界があると思いますので、そういうところをどのようにデータとして見ていけるのだろうかというのも今後の議論に期待したいと思ったことが一つです。

あともう二つなのですが、一つ目に、すごくこれは良いなと思ったのが、フラットの議論につながることです。学校では経験がすごく長い方と入ったばかりの教職員と、どの組織もそうだと思いますが、良いマネジメントができていないと、どうしても長い人が発言力を持ってしまうというようなところで言いづらいなど、本当はこういう学びのアップデートをしたいし、こういう提案もしたいけれど、関係性上なかなかそれが難しいということもあったりすると思います。そこを一旦、経験年数などをフラットにしつつ、今の自分のクラスの状態など、目の前にいる子どもたちの状態のデータもベースに議論ができるようになっていくと、すごくフラットに議論がしやすくなる手助けにもなり得ると思いますので、その活用方法も意識して、学校の中など、先生によってどのようにデータが議論

に活用されていくかということも見ていただけると、すごく良い学びのアップデートが現場でも進みやすくなるのかなと思いました。

二つ目は、今後、気軽にチャットなども充実しながらSOSがキャッチしやすくなっていくなど、現場だけで解決しないことにつながっていくことの期待感も語られていたと聞いています。そういうプラットフォームになっていくとすごく良いなと思ひまして、子どもたちも教職員もそうだと思うのですが、教育の中の情報だけでも膨大な情報を得ながら学びを作っていくというのを開いていく。いろいろな関係者の皆さんたちと共に子どもたちを育てていくという感覚に、教職員の皆さんや教育委員会事務局の皆さんがなっていくことや、そういった雰囲気と言いますか文化につながっていくきっかけになったら良いなとも思います。以上です。

丹羽教育課程
推進室長

ありがとうございました。まず、御質問いただいたことの前に、子どもたちのまさに学びの土台となる自分らしさへの自覚ということだと思ひのですが、横浜市教育委員会事務局では今、社会情動的コンピテンシーについてもしっかり研究しています。子どもたちの直接的な心の動きだけではなく、集団の中で個人が育っていく、そして、個人が育った集団が心地良いと言ひますか良い集団になっていくのかという研究もしておりますので、そういったこととしっかり掛け算していくことが大事だと思ひています。そういった意味では、御質問いただいたデータの良い状態とも重なるのですが、いろいろなデータと掛け合わせるときに、まさにベストミックスというのでしょうか、そういった状況を生み出すようなデータをどのように集めてどう分析していくのかということもしっかり横浜教育データサイエンス・ラボの中で議論しながら進めていきたいと思ひておりますので、ぜひ今後の横浜教育データサイエンス・ラボの内容にも御注目いただければありがたいと思ひます。ありがとうございます。

下田教育長

ほかに。

泉委員

御報告ありがとうございました。大変意義深い取組であることは疑ひの余地がないことと思ひます。私からは2点の要望になります。まず1点目は、モデル校が現在、小学校1校、中学校1校ということで、次年度以降も継続されると聞いておりますが、子どもの心の変化、子どもの健康に関するデータのことで発言させていただいております。今は「横浜モデル」を構築しようとしている最中かと思ひますが、そのためにモデル校で取っているデータ数が足りているかというのが少し気になりました。小学校1校、中学校1校となると、1学年の人数も限られてきます。もちろんいろいろな、男性・女性もそうですが、そういったカテゴリーも分かれてくる中で、解析の精度をもう少し上げていくためにはどうしたら良いかと考えたときに、今後の課題としてももう少しモデル校が増えていくという可能性があれば、ぜひお願いしたいと思ひました。それが1点です。

もう1点は、先ほど大塚委員のお話のところでもありましたが、今回、子どもたちのこういった教育データが、子どもたちのSOSをキャッチする方法が増えていく一つのツールになります。これまでより医療との連携がスムーズにいく可能性が高くなるという、もちろんそういった意義もある上で、もう一つ、子ども自身に、自分が答えたデータなど、その経緯・経過がどのようにフィードバックされてキャッチしていくのかということに大変興味があります。というのは、専門家につながるだけの目的ではなくて、子ども自身がデータから自分を知る、できたら自己調整能力の育成につながるようなデータのフィードバックのされ方が

研究されていくと大変望ましいと考えました。そのためには恐らく、どのように提示されたら子どもとして受け止めやすいか、分かりやすいかというところを子ども自身の目線から一緒に考えていくことも大事です。そういった意味で、「横浜教育イノベーション・アカデミア」、こちらには大学生なども参加されているとのことです。そこでのコラボレーションでどのような子ども自身へのフィードバックの在り方が望ましいかというところもこれから検討していけると、大変広がりが出て更に意義深いものになるのではないかと考えました。以上、コメントです。

丹羽教育課程
推進室長

ありがとうございました。まず、データ数のことを御指摘いただきありがとうございます。御指摘のとおり、今の数で十分だとは思っておりませんので、今後モデル校をしっかりと増やして、いわゆる分母を増やしていくということもしっかりと検討していきたいと思っております。また、自己調整能力、子ども自身の納得感を含めてということだと思いますが、それについても実は令和6年11月21日に子どもたちが動画でメッセージを送っている部分がありました。その中で子どもたちは、自分が思っているよりも実は疲れている、若しくは風邪の治りが思ったよりも早かったなど、自分自身が自分の体にしっかりと気付きを得ているようなメッセージがございましたので、今言っていたように、しっかりと子どもと議論していく場、若しくは御指摘いただいたような横浜教育イノベーション・アカデミアの仕組みの中で、教職員や、これから教職員を目指すような大学生の皆さんとの議論もしっかりしていきたいと考えております。ありがとうございました。

山本学校教育
企画部長

付け加えですが、今日いろいろ御意見を頂きまして、まず私たちとしては、国からも教育データを活用するというを言われていますが、本当の意味で教職員が使いたくなるような教育データといったものは一体何なのかということ日々自問しているところです。教職員が使いたくなるようなデータをどうしたら提供していけるかというのが、今回の横浜教育データサイエンス・ラボ立ち上げの一つの意味だと思っています。先ほど言われたように、今まで教職員は経験や勘で教育活動を行うことが多かったわけですが、それにこの教育データというものが取って代わるわけではなくて、あくまでも今までの経験や勘を生かしながら、この教育データを活用することでそれを更にサポートしていく、そのための教育データというような捉えをしています。先ほど森委員からも、どういうことが教育データのゴールイメージなのかというお話がありましたが、個人のデータとしては、いろいろな凸凹が見えてきたときに、それを平準化していくというような方向ではなくて、教職員の気付きを増やしていくという方向になると良いかなと思います。さらに、集団のデータとしては、学年やクラスごとだけではなくて、その学年や横のつながり、または小学校・中学校を合わせた9年間の縦のつながり、そのような横や縦のつながりをつなげていくための役割としての教育データ活用ということで、この横浜教育データサイエンス・ラボを一つの連携のプラットフォームとして活用していくことができれば、横浜市全体の学びのアップデートにつながるかなと考えています。これからもいろいろ御相談させていただいたり、御意見を頂きながら、学校の教職員の意見も取り入れながら進めていきたいと思っておりますので、また今後ともよろしくお願ひいたします。

下田教育長

よろしいですか。ほかに御意見等がなければ、次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第42号議案

「横浜市学校保健審議会委員の任命について」、教委第43号議案「横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について」は、人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

下田教育長

それでは、教委第42号議案及び教委第43号議案は、非公開といたします。審議に入る前に、事務局から報告をお願いします。

森長総務課長

次回の教育委員会臨時会は、1月24日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は、2月21日金曜日の午前10時から開催する予定です。以上となります。

下田教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会臨時会は、1月24日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席をお願いします。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

教委第42号議案「横浜市学校保健審議会委員の任命について」
(原案のとおり承認)

教委第43号議案「横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について」
(原案のとおり承認)

下田教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前10時33分]